

『子どもがトイレ掃除に参加する意味』
日本を美しくする会
相談役 鍵山秀三郎

職場の人間関係に耐えられない若者

「日本では、数十年前までは大家族の中で生活することが当たり前でしたが、今は違います。さらに、個室を与えられ、その中で過ごす子どもが多くなりました。学校に通うようになれば、確かに集団で学ぶことはできますが、集団から学ぶ機会は少ないでしょう。普段の生活や学校の中で、集団の中でどう生きていけばよいかを学んでいないことが、就職後に職場の人間関係で躓く原因につながっていると思います。こうならないよう、子どものときから集団で学ぶ習慣をつけさせたい。そのためにも、トイレ掃除の活動は役立つと思います。」

子どもの良さを伸ばすきっかけ

「人は誰でも長所をもっています。それなのに、相手の欠点について目がいってしまっている。ふつう長所の周りを欠点や短所がおっているからです。ちようと「おまんじゅう」のように、長所の周りは欠点や短所の「皮」でおおわれているんです。ところが徹底して掃除をすると、おまんじゅうの皮がひび割れて、中から長所の芽が出てきます。そのとき周りの大人からほめられます。すると、その芽はすくすく伸びていきます。もちろん、掃除以外でもこういう機会を子どもに与えることは可能です。でも、掃除は費用がかからないし簡単にできる。その上副作用がありません。こういう取り組みは少ないのではないのでしょうか」

高野修滋

☆☆Y・A先生は教員採用試験に合格し、この四月から新任教師として勤務します。

便教会新聞

第158号

令和 3年 4月

便教会は、教師の教師による教師のためのトイレ掃除に学ぶ会です。「方法論や技術や手法ではない、ただ身を低くして実践あるのみ」の教育方針で、自らの人格を高め

便教会新聞発行責任者 高野修滋
〒四四五〇八〇二
愛知県西尾市米津町天竺桂二七
T/F 〇五六三ー五六四三二七
携帯 090 - 4215 - 1727

『十年越しの便教会』

名古屋市立大学
学生 Y・M

十年ぶりにトイレ掃除に参加しました。前回参加したのは中学生の時でした。前回の記憶は鮮明に覚えています。真冬のトイレ掃除で、水がひどく冷たかったです。和式便器を掃除しました。手袋なしに便器に手を突っ込んだことなどなかったのが、初めはギョッとしましたが、すぐに夢中になりました。掃除後はとても清々しかった覚えがあります。家ではろくに掃除をしない私ですが、学校での「掃除の時間」は好きでした。限られた自分の持ち場で黙々と集中して作業することができる点が楽しかったのです。そんな私にとっても、中学時代に参加した便教会のトイレ掃除は大きな影響をもたらしたように感じます。「私は便器に手を突っ込んでピカピカにできたのだ」という自信がつき、掃除を黙々と真面目にこなすだけでなく自分の持ち場をもっと綺麗にしようという意識を持って掃除に臨むことができたようになりました。便教会の影響がもっとも顕著にあらわれたのは、中学二年の時のことです。皆が掃除に積極的になれるようにと、先生が掃除の担当場所を順繰りではなく、二、三週間おきに希望制で決めることにしたのです。トイレ掃除の枠は毎度

埋まりにくかったですが、私は便教会で得たトイレ掃除の達成感に感じ、毎回トイレ掃除を希望し一生懸命掃除をしました。便教会とは違い掃除道具の種類はとも少なく掃除時間もととても短いですが、毎日トイレを綺麗にすることをとても楽しく感じていました。そして、掃除の様子を見に来た先生が、掃除に対する姿勢や成果を褒めてくれることがとても嬉しかったです。中学時代を振り返ると、やはり体育大会や合唱コンクールなどの行事や友達とのおしゃべりなどを真っ先に思い出します。しかしこのトイレ掃除をずっと担当し一生懸命取り組むことができたという経験も、それらの思い出と同様に私にとって大切であると感じています。

私は中学時の便教会での経験にとっても感謝しています。しかしそれならばなぜ十年間も父の誘いにのらず、ご無沙汰していたのだろうかと今回久しぶりにトイレ掃除に参加させていただきました。忙い学生生活を送っていたという事もありますが、時間を作ろうと思えばトイレ掃除に参加するチャンスはあったと思います。なぜ参加しなかったのか。単純に、やや重い腰が上がらなかったのだなと感じます。いくら前回の便教会での経験が私にとって良い思い出であったとはいえ、やはりトイレ掃除に臨むためにはそれ

なりの覚悟と勇気を持つことが必要だったからではないかと思えます。しかし今回はトイレ掃除に参加しようと思えました。それは、就職が間近であるからです。春から社会人になりますが、新しい生活が楽しみな反面、大きな不安があります。私は大学在学中に留学をしたために、大学の友達より一年遅れて卒業します。これまでも先輩から職場での話を聞くことなどはありましたが、同年の友人らから聞く社会の話は、より現実味を帯びて「就職すること」への想像を掻き立てます。友人らは職場での楽しい話も辛い話も様々教えてくれます。大学生の時とは違う「社会人らしい」彼らの姿をカッコいいと感じると共に、私も彼らと同じように立派に社会人として頑張っていくことができるのだろうか、と焦りを感じます。年が明け大学の授業も全て終わり、最近は専ら家でのんびりしています。そのような環境の中だと余計、四月からの社会人生活が迫ってきているということがひしひしと感じられ、落ち着かない気持ちになってきます。そんな中で、今回の便教会への参加が、自分の気持ちを整え社会人に向けて気持ちを切り替えるいい機会にすることができのでは、と思ったのです。

今回のトイレ掃除は職員トイレであったこともあり、物凄く汚いトイレではありませんでした。しかし担当する和式トイレを

いざ目の前にすると、やはり多少の抵抗感を感じました。しかし便器が徐々に綺麗になっていくのは快感で、すぐに夢中になりました。全てを一気に綺麗にしようとするのではなく、一点集中で綺麗にした場所から徐々に綺麗を広げていくのだと教えて頂きました。私はせっかちで欲張りな性格で、目に入ったものはあれこれととりあえず手を出したくなります。掃除中も、目につくあちらこちらの様々な汚れを掃除したくなりしました。でもそれだとどの箇所も「そこそこの綺麗」しか達成できないのだなど、高野先生のアドバイスを聞き掃除をする中で実感しました。他の汚れに移りたい気持ちを抑えながら、「二点集中」を自分に言い聞かせ掃除を続けていくうちに、いつの間にか綺麗が増えていきました。一点集中している時は、「この箇所は確実に綺麗になっているけど、微々たる範囲だ。時間もそんなに多くないし、果たして今日この便器をどれくらい綺麗にできるだろう」と、やや心配な気持ちで正直ありました。しかし「綺麗を広げる」ことを繰り返し続けた結果、いつの間にか便器は自分が思っていたよりも随分綺麗になっていました。そして、掃除にひたすら集中した結果、なんだか心が落ち着き整ったように感じます。

社会人に向けて漠然とした不安を感じていました。自分の全く知らない世界で果たして自分はどのような生き方をしていくことができるのだろうか、自分が思っているよりもずっと、仕事が上手く出来なかったらどうしよう、という不安です。その不安が、今回のトイレ掃除によって和らいだ気がします。すぐに沢山の事をできるようにすることに感謝していきます。

『正しい方法、楽しい掃除』

公立高校
教諭 S・K

自分が生徒だった頃、掃除場所がトイレになると、ハズレだと思っていた。どこを触ったのか分からない、掃除の道具を素手で触りたくない。中学生のころに一度だけ裸足でトイレに入り、便器を手で磨くような掃除をした。日ごろのトイレ掃除にはマイナスの印象しかない一方で、その時はなぜだか夢中になって便器や床を磨いていた記憶がある。そのような機会がなぜあったのか、誰とやったのかは忘れてしまったが、「楽しかった。気持ちよかった。」という印象だけが今でも残っていた。今回のトイレ掃除の話を聞いた時、前と同じように、私はきっと夢中になってやるのだろうと思った。でも、掃除の時間と同じトイレという場所を掃除するのに、なぜこんなにも気持ちが違うのだろうか。そんなことを考えながら、今回のトイレ掃除に臨んだ。

やはり、今回も前のトイレ掃除と同様に、夢中になって便器を磨き、きれいにしたいと熱中する自分がいた。そして、みんなと話しながら行うのは楽しかった。いつものトイレ掃除と何が違うのか、取り組んでいく中で、2つの答えが見つかった。一つ目は、汚れを知り、それを落とす正

しようとするのではなく、一つひとつ丁寧に向き合い取り組んで、出来ることを増やしていけばいいのだと、トイレ掃除での「綺麗を広げる」ということから学ぶことができました。十年前のトイレ掃除と同じように今回のトイレ掃除もまた、私にとって大切な経験となったと思います。

『便教会を通して』

公立高校
二年生 O・M

真っ暗だった目の前を明るく照らしてくれた便教会では、私を成長させてくれる多くの学びを見つけることができました。便教会に誘っていただく直前の私は、自分勝手な行動や多くの方々迷惑をかけ、心が乱れていました。それが全て自分の生活につながっていることを後になって気づきました。生活の乱れは心の乱れ。また、その逆も言えることを知りました。そんな中、私を便教会に誘ってくださったのは、大見校長先生でした。正直、私はとても掃除が苦手で、ちゃんとできるか不安がありました。私自身を変えられることのできる良い機会だったので、ありがたく参加させていただきました。

当日、トイレに入った瞬間の嫌な空気と雰囲気、汚れの目立つ便器を目にして顔をしかめてしまったことを覚えています。その反面、このトイレが自分の力でどれほどきれいになるのかも知りたくなりました。初めての私は、掃除の仕方を一つ一つ丁寧に説明していただきましたが、今までしてきたトイレ掃除とは、はるかに違うもので

しい方法を教えていただいたことだ。トイレ掃除といえば、目に見える汚れをスポンジブラシでこすり終わりだと思っていた。やり方を知らずに思い込みでやり、きれいにならず、楽しいと思ったことはなかった。今回、汚れは便器の中だけでなく、壁のタイルの隙間やドアの上など至るところにあることを知った。加えて、便器にこびりついたさぼったリングは、軟らかいスポンジでは落ちず、サンドペーパーでこすると驚くほど落ちることも知った。汚れに気が付き、正しい方法で行えば汚れは必ず落ちる。一部がきれいになると、全部をきれいにしたいと思う気持ちが自然と生まれることに気が付いた。

二つ目は、使った道具をしっかり掃除することだ。今回使った道具は新品ではないものの大変きれいな状態であった。掃除の道具を素手で触りたくないのに、その道具を使うことにまったく抵抗を感じなかった。今まで掃除というと、場所をきれいにすることばかりに気が向いてしまっていた。しかし、掃除は一度で終わるものではなく、継続して行っていくものである。次に使う時に気持ちよく始められるように掃除道具を掃除することは、継続して行うためにとても大切なことであると気が付いた。今年から教員としてはたらくようになり、掃除を指導するという機会を持つようになった。掃除になかなか取り組めない生徒に「ちゃんとやるよ。」と注意するのではなく、正しいやり方を伝え、汚れに気が付かせ、場所も掃除道具もきれいを保ちたいと思うような環境を作っていきたい。

した。まず、トイレ掃除をするのにこんな道具が必要なのかと驚くほどたくさんの掃除道具。その中には、初めて見る道具や使い方のわからない道具などもありました。それらを使って決まった手順に従って掃除をしていきました。便器の中に手を入れて掃除をするなんて、人生で初めてだったので、かなり抵抗がありました。ですが、校長先生のお手本を見て意を決してやってみると、便器の中の水まわりの汚れが擦ると同時にみるみる落ちていきました。私はそれに感動して、夢中になってひたすら汚れを落としたことを覚えています。

今まで気づかなかった汚れや見て見ぬふりをしていた汚れが一つの便器だけでたくさん出てきました。汚れが積み重なっていく前に普段からの掃除できれいさを保っていくことが大切だと思いました。

掃除をしているうちに一つ、また一つと新たな汚れに気づき、よりきれいなトイレにしていきたいと思うようになりました。そうしているうちに三時間はあっという間に過ぎ、終る頃には見違えるほどきれいなトイレになっていました。最初思った嫌な空気と雰囲気は跡形もなく消え去り、長い間積み重なった汚れも落ちきり、それを自分の手できれいにしたんだという達成感でいっぱいになりました。トイレ掃除のおかげで自分の心もきれいになっていくことがわかりました。これは、日常生活でも同じことが言えて、家での手伝いをおろそかにしたり、スマホばかり触っていたり、自分のしたいことばかりしていると、心も乱れ周りの人からの信頼も失ってしまします。これは私の実体験だから言えることです。

『初心に帰るための時間』

公立高校
教諭 Y・A

掃除はあまり得意なほうではありませんでした。小さい時からよく掃除をせずに母に叱られたのを覚えています。掃除が苦手というよりも綺麗な状態を保つのが苦手なのだと思います。高校を出てから一人暮らしを始め、身の回りのことをやってくれる人が居なくなってから私の部屋は洗濯物がそのままになっていたり、教科書も積み重なり、茶碗もそのままになっていたり、とても綺麗だとは言えませんでした。そんな中で生活していると、どんな生活が乱れていくのが自分でも分かりました。今まで食べなかったカップラーメンを食べたり、夜も二時や三時に寝てお昼に起きたりすることもよくありました。ですが、あることがきっかけで私は今きちんと身の回りを綺麗に保つことができています。それは、大学時代に経験した留学生活がきっかけです。ホームステイ先では自分専用のお手洗いと洗面所がありました。私しか使わないからという理由であまり気にせずに使っていました。恥ずかしながら、今までトイレ掃除はしたことがない私にとって掃除しなければならぬことを分かっていませんでした。しなくてもいつもは綺麗だったからです。もちろんそれは母が毎日綺麗にしていたからです。でも初めて留学先でトイレ掃除をせずに叱られました。「トイレは毎日掃除しないとだめだよ」と言われて、できていなかった自分を恥ずかしく思ったのを覚えています。そこから私は毎日トイレを掃除す